

ふるさと歴史アラカルト

岩国の昔ばなし 4 城山の石、崩れ落ちる(前編)

明治維新を迎える前の文久3(1863)年、岩国藩主吉川経幹は、宗家である長州藩毛利家の名代として京都(後に堺町御門)の警備を担当していましたが、薩摩藩や会津藩などによる「八月十八日の政変」という事件が起こり、役目を免じられて帰国することとなりました。その後、長州藩の人々は、朝廷の周囲(他藩の大名など)の反対によって自分たちの正義が貫徹ないことを無念に思っていたため、上京して自分たちの正当性を訴えることを計画しました。そして元治元(1864)年7月、毛利元徳(当時の長州藩主毛利敬親の子)が上京のため、家臣を連れて三田尻(防府市)から船で出発しました。経幹はその後見役として同行することを決め、7月15日に岩国を出発することを家臣たちに知らせました。このとき、家臣の中には上京しない方がよいと考えている人々もいました。それは、京都は幕府側の大名た

ちが多く集まっております、行けば必ず何かが起こると恐れていたためでした。岩国藩士の藤田葆は、このとき武器の責任者として、岩国藩の兵局(軍隊の充実を担当する役所)に出勤しており、14日の夜は兵局に泊まっております。夜中になり、城山から例えばような大きな音が突然鳴り響きました。すぐに御館(藩主の居館)の方を確かめました。異常はありませんでした。するとまた、今度は寺谷(現在の紅葉谷)の奥から同じような音が響きました。明日は出発であるのに何事かと怪しみ、明け方に同僚の桂佐仲とともに武器庫へ行ってみると、異状ありませんでした。番人の林嘉右衛門に聞いてみると「あの音は山の上からしたもので、その震動でこの番所も崩れるのではないかと思っただが、この辺りは何事もなかった」と答えました。そのため、4・5人を連れて城山へ調べに行くことにしました。

今回の史料

『岩国治革志(怪談録追加・実事談)』江戸時代に岩国藩士広瀬喜尚が記した「岩邑怪談録」を藤田葆が編集し、怪談話や実話を追加したもの。明治43(1910)年。

※正式には岩国藩の成立は慶応4(明治元年1868)年



▲旧岩国城下図(横山)

いわくにちようこかん 岩国徴古館

昭和20年に旧岩国藩主吉川家によって建てられ、その後岩国市に移管された市立の博物館

住所：横山二丁目7-19 ☎0452
休館日：月曜(祝日の場合はその翌日)

岩国市 人口・世帯

人口 142,878人【前月比 -197人】 男性 67,670人 女性 75,208人

世帯 66,652世帯【前月比 -52世帯】 ※外国人人口を含む(平成26年3月1日現在)

交通事故発生件数 2月分事故件数 43件(81件) 死者数 0人(2人) 傷者数 53人(97人)

※高速道路発生分を除く

※()内は平成26年累計

広報テレホン

休日在宅医療機関、イベント情報などをお知らせしています。テレホンサービス ☎231234

目の不自由な人へ

「広報いわくに」のカセットテープをお貸しします。音声読み上げのためのテキスト版を、ホームページに掲載しています。

お問い合わせはお気軽に、秘書広報課広報班へ ☎295016 FAX213337